

平成 29 年 9 月 14 日

<各位>

ナノキャリア株式会社
代表取締役社長 中富 一郎
(4571 東証マザーズ)
問合せ先 取締役CFO兼社長室長 松山哲人
電話番号 03-3241-0553

スタウロスポリン（ノーベル賞受賞の大村智先生が単離）を同時封入した エピルビシンミセルに関する国内における特許査定のお知らせ

当社が開発中であるNC-6300（エピルビシンミセル）にスタウロスポリンをさらに内包させた2剤封入型の高分子ミセルDDSの物質特許出願について、日本国特許庁より特許査定を受けましたのでお知らせいたします。

【発明の名称】 エピルビシン複合化ブロック共重合体と、抗癌剤とを含むミセル、及び当該ミセルを含む癌又は耐性癌、転移癌の治療に適用可能な医薬組成物
【出願番号】 特願2016-542591
【特許権者】 国立大学法人東京大学、国立大学法人東京工業大学
※本特許につきましては、平成 29 年 6 月 15 日にご案内の通り、東京大学 TLO よりライセンスを受けております。

スタウロスポリンは、大村智先生（2015年ノーベル生理学・医学賞受賞）が1976年に放線菌から単離した抗生物質です。ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）の片岡・喜納ラボ¹⁾は、スタウロスポリンを同時封入したエピルビシンミセルが、悪性中皮腫のがん細胞のみならず『がん幹細胞²⁾』をも効果的に殺傷し、マウスモデルにおいて休薬後9ヶ月以上も、がんの再発が見られなかったことを報告³⁾しています。

当社は現在、NC-6300単剤での実用化に向けて自社開発を推進しています。既にお知らせしております通り、希少癌である軟部肉腫を対象とした第 I / II 相臨床試験を米国で実施しており、平成29年7月には、米国FDAよりオーファンドラッグ指定を受けております。

今後とも将来を見据え、NC-6300技術の利用幅拡大と事業独占性確保による製品価値向上も並行して検討してまいります。

尚、本件による平成 30 年 3 月期の業績への影響はございませんが、新しい医薬品の可能性を追求する共同研究など積極的な活動を推進し、見通しに変化が生じた場合には速やかに開示いたします。

以上

1) 片岡・喜納ラボ：iCONM センター長および東京大学政策ビジョン研究センター特任教授でもある片岡一則先生がラボ長を、そして東京大学客員研究員でもある喜納宏昭先生が副ラボ長を務める研究室であり、治療抵抗性がんの標的治療を可能にする高分子ミセル DDS と、それを利用した低侵襲治療システムの研究開発が進められています。

2) がん幹細胞：がん細胞の元になる細胞で、がん組織に数%のみ存在する細胞です。従来の化学療法および放射線療法に抵抗性を示すため、既存の抗がん剤治療では癌細胞が死滅し癌が治癒したように見えても、残存する少数のがん幹細胞により、がんの再発や転移が生じると考えられています。

3) <ご参考> がん幹細胞を狙い撃ちするナノテク抗がん剤の開発に成功
～アスベスト被爆が原因となる難治がん（悪性中皮腫）に対する奏功を確認～

http://www.t.u-tokyo.ac.jp/shared/press/data/setnws_20160422131152736275900876_581071.pdf